

熊本学園大学 外国語学部 第29号

英米学科 GAZETTE

令和5年5月
発行・編集
熊本学園大学 外国語学部

巻頭言

外国語学部長 塩入 すみ(教授/日本語教育)

熊本は戦前戦後の日本人の海外移民の歴史において「移民卓越県」と称されるほど海外移民が多く、特にブラジルへの移民は全国最多でした。広島、岡山、山口も移民卓越県でしたが、現在、熊本とこれらの県は外国人技能実習生の多い地域でもあります。その要因にはもちろんこれらの地域の経済・産業構造等が深く関わっていますが、移民研究の観点から見ると、移動する個人が自らのライフコースにおける移動先として

海外を選択したり、海外からの労働力を生活圏に受け入れていることは、熊本の歴史的・地域的な特徴と言えます。コロナ禍がようやく収束の兆しを見せ、英米学科の学生たちが目を輝かせて海外に飛び出していく姿を見ながら、海外と近い関係を築いてきた熊本の過去と今後のグローバル化の展開に想いを巡らせています。

研究・ゼミ紹介

佐藤 勇治(教授/スピーチ・異文化コミュニケーション)

私の研究分野はスピーチと異文化に関するコミュニケーション分野です。スピーチコミュニケーションの対象は演説・グループディスカッション・ディベートが主たるもので、古代ギリシャのソフィストまで遡ります。異文化コミュニケーションはアメリカを中心に発達した学問で比較的新しく、80年ほどの歴史があります。その前提として異文化理解があります。スピーチ関係では説得や問題の理解・解決を効果的に行う術を探り、異文化関係では文化の違いが他者との交流におけるどのような障壁になり、それをどう克服できるのかを探索しています。

上記の研究分野を3年生対象のゼミと4年生対象の卒業論文演習で取り扱っています。3年次のゼミではスピーチ分野と異文化分野を交互に隔年開講しています。スピーチ分野ではアメリカの優れた演説の分析を行っていますが、その対象は大統領のような政治家から神父・牧師のような聖職者あるいはビジネスパーソンのように多様な人達の演説を取り上げて、なぜそれらの演説が人の心を動かし長く記憶されるのか、いわゆる「名演説の秘密」の解明に取り組んでいます。演説の背景・目的・構造・表現技術・効果など多面的に

演説を分析し、その秘密にアプローチしています。

異文化分野では世界を俯瞰する視野を育成することを目的に、世界各地の様々な国を取り上げ、マクロ的な視点とミクロ的な視点の双方から理解を深めています。マクロ的な視点とは国の骨格をなす政治・経済・教育・宗教などの思想と制度のようなものを指し、ミクロ的な視点とは、「ことわざと価値観」・「名前の構造」・「国旗と国歌の意味」・「祝祭日の特徴」・「衣食住の文化」など国民生活の身近な話題を指しますが、これらの理解を深めることで一つの国や国民をより立体的に理解できる力を育成しています。

卒論ではスピーチと異文化分野の中から、学生がテーマを選び研究をしています。



図書紹介

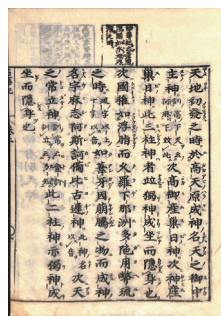
和本で日本古典文学を読む

村上 義明(准教授/日本古典文学)

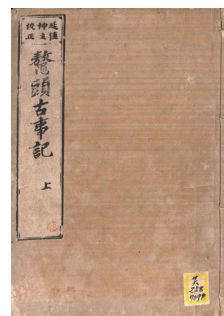
中学や高校の授業ではもちろん、こうした教育機関外において日本の古典籍を読むとき、多くの場合、現代の技術で作成された洋装の活字本を抜くこととなります。私が担当する日本研究分野の講義において古典文学作品を扱う場合も同様に活字のテキストを使用しますが、ときに江戸時代に作られた和本を用いることもあります。

和本は、版木に文字や絵を彫りつけて、版画のように印刷した和紙を、一枚ずつ折り曲げて紐で綴じるといって、現代の大部分の書物とは異なる方法で作製されています。同じ内容の本でも、それぞれに手作りゆえの個性があるのも、現在市場に流通している本とは大きく異なる点といえます。そこには、くずし字(変体仮名)や、現在ではほとんど用いられなくなった漢字が記されていることから、読解が難しい場合もありますが、長らくこの国で用いられた書物や文字の文化に触れるよい機会だと考えています。

今回紹介する古典籍もまた、講義で用いる作品の一つです。書名は『^{ごうとうこじき}鼈頭古事記』。「鼈頭」とは、本文の上欄に記された注釈のことです。江戸時代前期の神道家・^{わたらいのおよし}度会延佳が古事記の諸本を校合し、頭注を加えたもので、貞享4年(1687)に成立しました。古事記の注釈書といえば、寛政10年(1798)に完成した本居宣長の『古事記伝』がよく知られています。以後、現在にいたるまで数々の注釈書が刊行されていますが、『鼈頭古事記』は、これら出版された古事記注釈書のさきがけとして注目すべき作品です。



冒頭



表紙

「エアライン・ツーリズムプログラム」の新設について

向井 久美子(教授/アメリカ文学)

英米学科では、以前から非常に要望の強かった、航空業界や観光業などのキャリアに直接関わることのできるプログラムを設置することになりました。中でも「エアライン・ツーリズム演習Ⅰ・Ⅱ」では、1年次から航空業界にダイレクトにつながる理論と実践、英語でのコミュニケーション力や航空実務なども学ぶことができます。基本的には客室乗務員やグランドスタッフなどを希望する学生を対象にしていますが、自由度の高いプログラムで、明確に将来の職種を決めていない場合でも、まず受講してみることでできるのも大きな魅力です。

本学科は、これまで既に数多くの客室乗務員や航空・旅行関係へ優秀な人材を輩出してきていますが、今回のプログラムをきっかけに、これまで以上にキャリア意識の向上や社会人への準備のスキルアップなどが期待されると考えられます。JAL や ANA をはじめとする数々の航空業界、また旅行産業や大手企業で活躍する人材を育成してきた実績の確かなワシントン外語学

院と提携し、客室乗務員やグランドスタッフの具体的な業務を実践的に習得できるプログラムとなっています。本学英米学科出身で現役客室乗務員やエアライン業界でさまざまに活躍している先輩方を講師に招き、最新のアプローチや情報をもとに、他に類を見ない親身で丁寧な指導が行われます。その他、航空業界や旅行業界に関連する講義やインターンシップなど、キャリア形成の大きな一翼を担うプログラムになっています。

英米学科に通いながら、航空業界や観光業に関する専門性の高い就職活動の準備を行うことができます。これから海外との交流もますます活発になりますので、本プログラムに是非ご期待下さい！



きみと未来をつなげる

クマガク

編集人 坂田 直樹

〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1

TEL: 096-364-5161(代表) Mail: na-sakata@kumagaku.ac.jp